

私はバルフェ・マリー・ケルベ、中央アフリカのカメルーン国から参加したJICA(国際協力機構)研修員です。カメルーン南西に位置するリトラル地方から参加しました。州都はドウアラで、面積は20248平方キロ、人口は5

ナヒゲーター

00万人です。私は州の中小企業振興局という公的機関で経営コンサルタントをしています。

2019年からJICAと協力関係を結び、日本人専門家と一緒に仕事しています。私はカイゼン・プロジェクトをとおして、日本人から多く

期待の日本へ 世界各地から

頁 62

のことを学びました。実際、カイゼン手法を使った継続的な改善や生産性向上に関する日本の手法や技法は、世界でも最善のものだと思います。わが国におけるカイゼン・プロジェクトの目標は、カイゼンによる中小企業の強化や競争力の増強にあります。このプロジェクトでは、経営コンサルタントを教育訓練、育成して、企業や製造現場にカイゼンの手法を導入しています。2016年から現在までに116人の経営コンサルタントを育成しました。

日本訪問の夢実現学びと驚き

アフリカ西岸カメルーンから

同時に、各種の企業や組織とネットワークを持ち、協力関係を結んでいます。今年私は私にとって特別な年になりました。夢が実現したのです。私の夢は日本を訪問することでしたが、JICAはこの研修に参加するチャンスを与えてくれました。私は本年6月から7月にかけて25日間日本に滞在できました。

日本では、経営に関する知識全般を深めることができました。帰国後、私は自分がコンサルティングを担当する会社で学んだことを適用し始めました。この研修は企業のレベルアップに役立つと考えます。日本は近代的な大きな国ですが、バス、電車、飛行機の公共交通機関が整い、東京、広島、名古屋、大阪、埼玉などの都会でも生活様式は好ましく、社会秩序が保たれた国であることを知り、うれしく感じました。私は日本の新幹線が速いだけでなく、時間ど

り運行されていることに大変感動しました。通信インフラや自動車で日本の技術力が高いだけでなく、文化や伝統が豊かで多様な経営コンサルタントになりたいと思っていますが、日本こそその場所だと考えます。現在、私は日本の代弁者として、自国で日本のことを語っています。JICAは国際協力の最高の成功モデルの一つだと思います。頑張れ日本！アリガトゴザイマシタ。【バルフェ・ケルベ、リム中産連】(月曜日に掲載)